



カーブミラー設置



グラウンドの国旗掲揚塔の横に、カーブミラーを設置していただきました。休み時間になると、玄関からグラウンドに向かって走って行く子供が多く見られます。道には「トマレ」の表示は書いてあるのですが、止まらずに道を突っ切っていく子供が多くいます。中学校側から走ってくる車からはよく見えるのですが、幼稚園側からは給食室の陰になってしまってよく見えない状態

で、事故が起こらないかひやひやしていました。これで、子供たちからも車からも互いによく見えるようになりました。

足踏み式消毒スタンド寄贈

五福のトヨタモビリティ富山さんから、「足踏み式消毒スタンド」を寄贈していただきました。自動車の部品を作る技術を生かして、会社で作られたそうで、そのうち一つを学校に寄贈していただきました。コロナ禍はまだまだ終息が見えず、まだまだ手指消毒も必要です。玄関に設置してありますので、ご来校の際（少ないかもしれませんが）にご活用ください。



運動会

雨で一日延期としましたが、5月23日（日）に、今年度の大運動会を開催しました。年度当初は保護者の方にも人数を限定して見ていただくよう考えていたのですが、県内の感染者増加を受けて、2年続けての無観客開催とさせていただきます。

昨年度は個人走を中心とした縮小プログラムでしたが、今年度は、

ほぼ例年に近いプログラムで実施しました。昼頃には空も晴れ渡ってきて、気持ちよい天候となりました。全力で競技や応援に取り組んだ子供たち、閉会式には真っ赤に日焼けし、充実した表情が印象的でした。



あとみよそわか



何かのおまじないのような言葉です。ご存知の方も多いかもかもしれませんが、明治の文豪幸田露伴が娘の幸田文に掃除等のしつけをする際に伝えたと言われている言葉だそうです。仏教に由来するという説もあるようですが、端的に言えば、「何か行動を終えたら、自分がしたことをしっかり振り返ってみなさい」という意味だそうです。ほうきで掃いたら掃き残しがないか、雑巾がけをしたらふき残しがないか、トイレでスリッパを脱いだ時、玄関で靴を脱いだ時、履き物がそろえてあるか等、ほんの1秒ほどかければきちんと整えることができ、みんなが気持ちよく過ごせることが、身の回りにはたくさんあると思います。忙しい中だからこそ、一呼吸おいて自分の言動を振り返るゆとりを、大人も子供も大切にしたいものです。

誰の課題？

かなり前になりますが、現在も附属小学校の学校評議員をしていただいている、道文心理研究所所長の坂本美奈子先生に、附属小学校の保護者向けに講演していただいたことがありました。その時の話が、次のような内容だったと記憶しています。

日常生活の中で起こる、さまざまなことで大切なのは「それを課題と一番感じている（望んでいる、願っている）のは誰なのか」ということだそうです。相手はその課題を重要だと感じていない時には、感じている側が「お願い」しなければならないというお話でした。

例えば、子供に「勉強してほしい」と最も願っているのが親だとすれば、親は子供に「勉強してほしい」とお願いしなければならないということになります。好き嫌いなくご飯を食べてほしい、朝早く起きてほしい等、家庭でも学校でも、子供に願うことはたくさんあると思います。しかし、私たち大人の言葉は、子供から見て「お願い」ではなく「命令」になってはいないでしょうか。大人が子供にかける言葉の裏には、その子のためを思う愛情があることは間違いないと思いますが、その時「しつけ」という名目の下、その愛情が伝わってなければ、受け手にとっては「命令」と受け取られても仕方がない面はあると思います。「お願い」というスタンスを忘れなければ、口調も違ってくるでしょうし、頭ごなしに言わずに、引き受けてもらえるような工夫もするようになると思います。大人同士で、それが上司と部下という関係であっても、「命令」と「お願い」では言葉もだいぶ変わるでしょう。

日常生活のさまざまな場面で、大人も子供も相手にしてほしいことは「お願い」することを心がけていけるとトラブルも減るかもしれません。ただ、頭では分かっている、その場になるとなかなか難しいのが現実ですね。それでも、みんなで少しずつでも心がけていけるとよいですね。

(副校長 草野 剛)